

国際理解セミナー「中国を知ろう！」を開催しました！

11月9日（日）10時から、鈴鹿国際交流協会にて、中国を知るセミナーを開催しました。講師には三重大学院生の国平さんと周 威さんをお招きし、そして講演の間には鈴鹿国際大学卒業生の周 寧さんに琵琶を演奏していただきました。



《国平さんのお話》

国平さんは内モンゴル出身なので、主にモンゴル民族について紹介をしてくださいました。

テーマは「私の視点から見た他民族国家—中国」。

中国の面積や人口、民族の数やその分布状況の紹介、そしてモンゴル民族についてお話をしてくださいました。

また、最後には、彼らの生活に馴染んだ食べ物やお茶を紹介してくれました。

ひとつはステ茶（スーテイチャイ）という乳茶です。ヒツジから採った乳でできているそうです。少し塩味の効いたミルクティといったかんじでしょうか？そこへこれもモンゴルでは有名なアーロールというチーズを浸して、溶かすようにして食べます。日本で食べるチーズとは全く種類の違うもので、チーズだけ食べるとポロポロとくだけるかんじで、チーズとは思えない食感でした。遊牧社会で、日本とは生活スタイルが大きく異なる騎馬民族であるモンゴルの人々の生活に馴染んだお茶とチーズ。とても興味深かったです。



《周 威さんのお話》

周さんは、中国河南省出身で今年の4月に来日されました。彼は漢民族で、中国の旧暦に沿った「祝日とその行事」についてお話をしてくださいました。

数字の「9」は「久」＝長久平安の意味があり、中国ではとても縁起の良い数字で9月9日は特に良い日。その日は重陽節＝敬老の日で、中国ではよく両親を“菊の花見”に連れて行くそうです。写真で周さんが手に持っているのは、「元宵節」



(旧暦1月15日の満月の夜)の日に、食べる「湯団」「湯円」と言うものです。「団円」＝「一家団欒」を象徴する食べ物だそうです。

新しい春の到来を祝って、提灯に火を灯し、月を眺め、提灯に貼られた謎々などを当てたりしながら一家団欒して過ごすそうです。

封建的な時代には、若い女性は自由に外出できなかつたので、未婚の若い男女が出逢う機会はあまりありませんでした。元宵節の日は、花提灯を觀賞するという口実で遊びに出かけ、相手を探すことができたそうです。若い男女にとって元宵節の期間は、恋人に出会う為の「恋人節」だったのでですね。(^ _ ^)

他にも、「春節」の餃子、「中秋節」のゲッペイなど、それぞれの祝日にちなんだ文化や習慣を楽しく披露してくれました。

《周寧さんの琵琶の演奏》

お二人のお話の間に、“ホットブレイク”でチーズとミルクティを頂き、琵琶の演奏をして頂きました。奏者は^{せんせいしやう}陝西省西安出身で来日して7年の周寧さん。白いチャイニーズドレスが魅力的で、その音色も大変美しかったです。



演奏して下さった曲は全部で4曲で、

「茉莉花」「紫竹調」「Unforgettable」「Wild Rose」です。一曲目の「茉莉花」(モーリーファー=ジャズミン)は、中国江蘇省の民謡で、中国で誰でも歌える歌だそうです。北京オリンピックの開会式や授賞式の音楽として会場に流れていましたネ。

「紫竹調」(ズーヅァーテォ)は、上海地方の劇から編曲した曲で、「紫」の字の「糸」は、弦楽器の弦を意味します。「竹」は竹で作られた管楽器を意味します。それで、「紫竹調」は弦楽器と管楽器の合奏曲なんだそうです。流れる明るいメロディを持つ曲です。

「Unforgettable」は周さん曰く「少し切ないが、希望と力を与えてくれるようなメロディ」、そして「Wild Rose」は「朝の光を浴びキラキラと光る川面、水辺で風と戯れる草花・・・という新しい朝が訪れるスケッチの曲」だそうです。いずれも素晴らしく、参加者のみなさんは多くの方が目を閉じて、うっとり琵琶の音色に耳を傾けておられました。

周寧さんは、現在、中国語を松阪・久居で教えてみえます。

鈴鹿市に住んでいらっしゃいますので、中国語を習いたい方は、協会までご連絡下さい。

Chico